

#04_私の体でストレス発散してください♪ お隣さんとホテルで激しめエッチ

//ラブホテル

「わあ～...広いです～ラブホテルって、こんな感じなんですね～

「ベッドもとっても大きくて...これなら2人一緒に寝ても大丈夫そうですね♡」

「それに壁も厚そうで...これならどんな大声出しても、平気そうですね♡」

「じゃあ、まずはシャワーでも...」

「あっ...！」

「お隣さん？ どうしたんですか～？」

「もしかして、このまましたいんですか？」

「たくさんストレス...溜まってるんですね～」

「なら...わかりました～」

「お隣さんのストレスを発散するために来たんですから...」

「すぐにエッチ...しちゃいましょう♡」

「お隣さん、こっち向いてください♡」

「んっ...ちゅっ♡」

「んっ、んっ♡ んちゅっ、ちゅ...れるれる...れろちゅっ...♡」

「お隣さん♡ ちゅっ...服、んちゅ...脱いじゃいましょうか♡」

「んん、んふっ、れる、れるちゅっ...ちゅぷ、れるちゅっ...ちゅっ...れろれろ...」

「んふーっ、ふう...んっ、はあむっ、れるれる...れるぷちゅっ...

ちゅっ、ちゅぷっ、ちゅぱっ...んんっ♡」

「ぷはあ...ふう、ふう...んんっ♡ はあ、はふう...♡」

「ふふっ、お互い、裸になっちゃいましたね♡」

「後は下だけ...ですね～♡」

「ふふっ♡」

「お隣さんのも、脱がせちゃいますね」

「ふう、ふう...もう形がわかつちやいます♡」

「これで2人とも裸ん坊...ですね♡」

「じゃあ、ベッドに行きましょうか～」

「お隣さん♡ 来てください～♡」

「ふう♡ んんっ♡」

「はあ...お隣さんの体...ゴツゴツしてて、カッコいいです♡」

「それに...すう～はあ～頑張ってる人の匂いがして...とっても素敵♡」

「お隣さん...今日は好きなだけ、私の体でストレス発散してください♡」

「ご褒美...と言うと変かも知れないですが...」

「ここなら大きな声が出ても大丈夫ですから...

「この胸も...」

「唇も...」

「お隣さんの好きなように、使ってください♡」

「ふう...ね、お隣さん♡」

「ちゅっ♡」

「来てください...♡」

「んんっ♡ はあ、はあ、はあ♡」

「んっ...ちゅっ、ちゅっ！ ちゅうっ...んんっ♡

はあ、はあむっ...ちゅっ！ んちゅっ！」

「ふう...ふう...んちゅっ、ちゅ、ちゅりゅ...れるちゅっ、れるれる...んんっ！」

「んふっ...ふうっ...んんっ！ んちゅう！

れるれる...ちゅるりゅっ！ んふう♡」

「はあ...はあ...今日のお隣さん...んんっ♡

激しい♡ んちゅっ、れるれる...れるちゅっ♡ んんっ！」

「んーん、いいんですよ♡ 好きに使ってと言ったのは私ですし～

んっ、ちゅぶっ...んあっ♡」

「それに...そういう所も...んんっ♡ かつこいいです♡」

「はあっ...はあ...んんっ、ふうう...おっぱいも、

強く触って...いいんですからね♡」

「はあむっ、んんっ！ んふっ、ちゅっ...ちゅぶっ...んちゅ、

れるれる...れるちゅっ♡」

「んんっ♡ はあ、はあっ！ んっ、んふっ、はあ...ふうう♡」

「こう激しく、おっぱいを攻められちゃうの...んんっ♡ 好きかも...ですよ♡」

「はあはあ、んんっ、ふう、はああ...んんっ♡」

「はい、たくさん、たくさん...めちゃくちゃにしてください♡」

「んんっ！ はっ、はっ♡ んっ、はあうっ♡

ふう、ふう...んんっ！ ふうう...♡」

「ああっ、あっ、あっ...んっ...私も...興奮してるんでしょう...んっ！ かあ！」

「もう、体がゾクゾクして...ふうっ...んっ、はあ、はあ...♡

すぐに...イツちゃうかも...しれせんっ...んっ！

んんっ！ あっ、あっ、ああ...♡」

「あっ...はあ、はあ...おっぱい、たくさん...はあ、触られて...んあっ、ふう...！

んんっ！ 気持ちいい...♡」

「はあ、はあ...んんっ！

はあ、はあ...んんっ、ふっ、ん、はあ、はあ...んんっ！」

「ふう、ふう♡ お隣さん...お隣さあ...んっ♡」

「あの...んんっ♡ お願い...しても♡ いいですか〜？」

「はあ、はあ、んっ！ ちゅ〜...ちゅー...したいです〜♡」

「んっ、ふう♡ ちゅっ、ちゅっ...♡ ちゅうう...♡

んんっ、はあ、はあ...ん ちゅっ、ちゅうう...♡」

「はふうっ♡ んんっ♡ 力強くぎゅーってされて...んんっ♡」

「ちゅっ、ちゅうっ...れるれる...ちゅっ、ちゅっ！ んんっ、はふ、んっんっ♡

んちゅ、れる、れるちゅっ！」

「はあ、はあ...んっ！ はあ、ふうっ♡

お隣さんの男らしい姿を見れて...んんっ♡

私...もっともっと、お隣さんが大好きになっちゃいそうです〜♡」

「ふふっ、はあ、はあ、そうですよ〜♡ 大好きです〜♡」

「だから、んんっ♡

お隣さんになら...なんでもしてあげたいって...思うんです♡」

「だから、私の体、たくさんたくさん、使ってください♡」

「それで、私も幸せ...ですから♡」

「んんっ!? んっ！ ちゅっ♡ ちゅう♡ はう♡ お隣さあんっ♡」

「んちゅう、れるれちゅっ♡ ちゅぷ♡ あふっ♡

んっ、んっ！ んちゅ、れるちゅっ♡」

「はあ、はあ...嬉しい♡ れす♡

んちゅっ、ちゅぷっ、れる、れるれるれちゅっ♡ んっ、ふう...♡」

「んっ♡ はあ、はあ♡ お隣さんにキスされてっ...んんっ♡」

「はあ、んっ♡ 幸せで...おかしくなっちゃいそう...ですう♡」

「それに、触ってもらってると...どんどん、きて...はあ、んっ♡

んんっ♡ はあ、はっ、はっ♡ はっ♡」

「はうっ...！ んっ、はあ、はあ...んっ、んんんんんっ♡」

「んんっ、はあ、ふう...んっ♡ はあ、はあ...ふう...♡」

「えへへ...幸せなのと、気持ちいいのが一緒に来て、イツちやいましたあ♡」

「ん...♡ お隣さんより先に...イッちゃってごめんなさい♡」

「お隣さんも、そろそろ...溜め込んだ精液...出したくなっちゃいましたよね？」

「はいっ♡ 私のおまんこ...使ってください♡」

「ちょっと、起きますね♡」

「お隣さん♡」

「ふふ、いつもとは違う感じで、誘っちゃおうかなって思って...」

「後ろから、してみませんか？」

「その...お隣さんの力で、男らしくバチュバチュって突いてみてほしくて...」

「奥まで、お隣さんので、たくさん突いてください〜♡」

「ふふっ♡ ありがとうございます♡」

「んあう♡」

「はあ、はあ...んんっ♡」

「ふう...いいですよお♡ んふっ♡ 挿れてください」

「お隣さんの欲望を、ぜ〜んぶ発散しちゃってください♡」

「ほら、どうぞどうぞ〜♡」

「んっ、あっはああんっ♡」

「はあ、はあ...一気に奥まで♡ んんっ♡ 」

「はあ、ふう♡ もう気持ちいいのに...

この後動かれたら、どうなっちゃうんでしょう...♡」

「ふう、ふう...はいい〜いつでも、どうぞ...♡」

「んんっ！ あっ！ あっ！ はあ♡ はげしい♡

んんっ！ はっ！ はあうっ！ んんっ！」

「これっ♡ あっ♡ はっ♡ はあっ♡ いいっ♡

はじめからっ♡ んんっ♡ 奥までえっ♡ 来てえ♡」

「はあっ！ はっ♡ はっ♡ んあっ♡ あうう♡ はっ♡

んんんっ♡ きもち...いいですう♡」

「んんっ！ お隣さんがあっ♡ はっ！ はっ！

こんなっ...んんっ！ 激しく...してくれる...なんてえ♡」

「んんっ♡ 意外...ですけどっ！ 新しい一面が見れてっ...あっ♡

あっ♡ はふう♡ 嬉しい...ですう♡」

「はふうっ...はあ、ああ...んんっ！

はっ、はっ...♡ ふふう♡ はっ、んんっ♡」

「んあっ！ あっ！ んっ！ んんっ！ ふう、ふあっ♡ はっ♡ んああ...♡」

「はあう...♡ はっ、はっ♡ あうっ！ あああっ！ あんっ！

んんっ！ ふっ！ はっ！ ああうっ！ ふうっ！」

「んあっ、あっ...ああっ...んんっ！ んうっ！ はあはあ♡ お隣さん♡」

「いいです...いいですよお♡ んふっ、はあ...はあ...」

「お隣さんのお...♡ 男らしい攻め方でっ...んっ！ んっ！ 私...私い...♡」

「また、イツちゃ...ううう♡」

「んああっ♡ はあ♡ はあうっ...んんっ、んっ、んんんっ！」

「んんんっ♡ んっ、だめ...ですよお♡ 止めないで...くださいっ♡」

「私はイッちゃいましたけどお...んっ♡ んっ♡

お隣さんは...まだ、なんですからあ♡」

「それにい...んっ♡ んんっ♡ 私がイケばイクほど...おまんこ♡

んふっ♡ きゅーってなりますから♡」

「ふう、ふう...その分、お隣さんが、気持ち良くなれるって...んんっ♡

はっ、はっ、あうっ♡ 思うんです～♡」

「だから、んっ！ もっと、もっと...たくさん突いて♡

私を...たくさんイカせてください♡」

「んふっ♡ そうしたら...んんっ♡

最後は1番気持ちいいお射精...はふっ♡

はっ、はっ、はうっ♡ できると思うので♡ んんっ♡」

「だから、もっと...もっとお♡ 激しく...お願いします～♡」

「あうっ♡ あんっ♡ はっ♡ はふっ♡ あっ♡ あああっ♡ はっ♡ はっ♡ ううんっ♡」

「激しいのっ♡ きたあっ♡ あうっ♡ はあっ♡ あんっ♡

あっ、あっ、あっ♡」

「はあふう♡ 好きですう...お隣さんのおっ♡ 奥まで全部えぐられてえっ♡」

「ああっ♡ はっ♡ はあっ♡ あふっ♡ んっ♡ ふっ♡ んんっ♡

はあうっ♡ んんっ♡」

「んんっ♡ お尻にお隣さんの体が当たる度にい...一突きされるたびに♡

私の体が、おまんこがあっ...♡ 喜んじゃってますう♡」

「お隣さん♡ お隣さあん♡ あああっ♡ はっ♡ はあっ、はうう！」

「その...良かったら、私のお尻を...んんっ、叩いてくれませんか？」

「そしたらすごく気持ち良くなる...気がするんです〜♡」

「はあ、はあ、ふうっ...んんっ♡」

「その分、締めりも良くなってっ...んんっ♡

お隣さんも喜ばせるって思うので...」

「お願いします♡ 叩いてみてっ...ください〜♡」

「あんっ♡ はあっ♡ はっ♡ んんっ♡ あっ♡ あっ♡ はあうん♡」

「んんっ♡ もっと、もっと強く叩いてもいいんですよお♡ んんっ♡」

「あんっ♡ はあうっ♡ んっ♡ あんっ♡ ああんっ♡

はあ、はあ...んんんっ♡ あんっ♡」

「はあ、うっ♡ んんっ、ふう、ふう...♡ いい調子ですねえ♡」

「やっぱり...んんっ♡ あんっ♡ はあっ...んんっ♡

男らしいお隣さんもおっ...好きですっ♡」

「はあうっ♡ あんっ♡ んっ！ あんっ♡ あっ！ あうっ！ ううんっ♡」

「ふうっ！ ふうう♡ 素敵ですっ...お隣さんっ♡」

「んんっ♡ はあ♡ はあ♡ ふうっ♡ んあっ♡ あっ♡

ああくっ♡ んんっ！」

「はふっ♡ んんんっ♡ お隣さんの...大きくなってえ♡」

「ふふっ♡ はあ、はあ、そろそろ...そろそろなんですかあ？」

「イツちやいそう...なんですよねえ♡ んんっ♡」

「ふう、ふっ、んっ！ わかりますよお♡」

「お隣さんのこと...ですもん♡」

「私も...また大きい...んっ♡ 来そうですからっ♡ はあ、はあ♡

今度は一緒に...イキましょう♡」

「ふう、ふう♡ 私の腰をしっかり掴んでえ♡

力強く...パンパンってしてくださいね♡」

「はあっ♡ んんっ♡ はっ！ んあっ！ あっ♡ はあっ♡」

「はううっ♡ んっ！ んっ！ それっはげしっ...♡ はあうっ♡

はっ♡ はあんっ♡」

「ああっ...イク...イツちやいますう♡ あっ！ あっ！ あっ！」

「お隣さんっ！ お隣さあんっ！ イキましよ...一緒に...イキましょう♡」

「んんっ♡ うっ♡ 奥...届いてえ♡ んんっ♡」

「あっ！ あっ！ イク...イク！ イクイクイク♡」

「んっ！ んんんんんっ～～～♡」

「あぁっ...♡ お隣さんの熱いのが...んんっ♡ びゅくびゅく♡

どぷどぷ...来てますう♡」

「射精...止まらない...こんなに、たくさん♡ んっ...んうう♡」

「はぁ...はぁ...♡ はぁ...♡ はふう♡ んっ...ふうう♡」

「はぁ、はぁ、お隣さん、ストレス発散はできましたか〜？」

「もしかしたら今日は〜私の方が、色々と発散させてもらえたかもしれません〜」

「男らしいお隣さんに...たくさん気持ち良くしてもらっちゃいましたから♡」

「ふふっ♡ たまには...こういうのもいいですね？」

「今度はまた、私が...お隣さんを癒しちゃいますから」

「楽しみにしててくださいね♡ お隣さん♡」